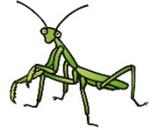




学校ビオトープ相談対応

- と き 2023年5月13日(土) 13:30~15:30
- と ころ ●●市立 ●●小学校
- 担 当 学校関係者の方々(3名)
- 対 応 ●●、●●(いずれも、日本ビオトープ管理士会 近畿支部)
- 相談内容 学校ビオトープが廃れて、池には水も入れていない
何とか自然観察の場として再生したい



■助言概要

- ◆校舎に囲まれた中庭内に立地していることは好条件(目に付きやすい)
- ◆池の水深が深すぎる(現在、水は入っていないが)
- ◆劣化した防水シートが見えるが、機能していないので剥がした方がいい
- ◆水深は深くても70cmくらいで、変化をつけることが望ましい
その結果、平均水深が30~50cmになっても構わない
(水深差があれば、湯水時の迅速な状況把握につながるし、生きものの避難場所になる)
- ◆水張り後、漏水による水面の低下が予想されるが、水を足してやることを続けてい
れば、時間の経過とともに目詰まり等により漏水量が減ると思う
- ◆いつまでも漏水が続くようであれば、「ベントナイト」などの投入を検討する
- ◆水の濁りや、アオミドロなどの発生を抑制するためには…
 - ◇一部に、動物プランクトンが増殖しやすい、水深5cmほどの湿地ゾーンを設ける
 - ◇昼夜の水温差を小さくするため、池畔の樹木の枝葉を茂らせる
 - ◇一部にガマ等の水生植物を生育させる(窒素分を吸収させる)
※水面を覆い尽くさないように、適宜除草管理が必要
(空を飛ぶ野鳥やトンボは、水面の光反射で「水」があることを認識するが、葉で埋め尽
くされた現状ではその認識ができない)
- ◆池の周辺の草地は、幾つかのブロックに分け、刈込み時期に差をつけたい
その結果、草丈の異なる草地ができ、生きものの種数が増える
- ◆30cm高程度で良いので、枝やこぶし大以上の大きさの石を積んでおけば、生
きものの隠れ場所になる
- ◆池の外周の一部を通行止めにしたたり、観察時以外は草地の歩路を固定したい
- ◆生け垣を作ったり、フェンスに「アケビ」や「カラスウリ」などのツル植物を這わせ
るなど、校内の「緑のネットワーク」づくりにも配慮して欲しい
- ◆池の水は「雨水」が望ましいが、補充程度なら水道水で問題はない
- ◆魚類やカメ、ザリガニなどを入れると、水が濁る原因になるので避けたい
- ◆蚊の発生が気になるのであれば、「メダカ」程度を導入するくらいか… 以上